

◇パウロ（*ママ）杉原千畝（1900年1月1日-1986年7月31日）とニコライ堂

今年も5月11日に鎌倉霊園にて杉原家の墓地祈禱が行われました。外務省本省の指示に従わず、シベリアから日本経由でしか脱出するルートが無くなったユダヤ難民に、リトアニアを占領したソ連軍に退去させられる最後の日まで日本の通過ビザを書き続け、多くのユダヤ人（注）の命を救った杉原千畝を知る人は多いと思います。

5月30日の午後、杉原千畝研究会の御一行がニコライ堂の見学に来られ、代表の小野様にお話を伺うことができました。この研究会は杉原千畝の足跡を自らの足で実際に辿りながら彼の偉業の研究をされているということで、杉原千畝が最初の結婚式を挙げたハルピンの聖ソフィア大聖堂（現在は博物館）にも行かれたそうです。

正教徒であった杉原千畝はニコライ堂とも所縁の深い人でした。最初の妻がロシア系の正教徒であったことがきっかけで満州のハルピンで洗礼を受けて正教徒になりましたが、この結婚は長く続かず神官の娘であった幸子（ゆきこ）夫人と再婚をしました。

この結婚に際して幸子夫人も正教徒となり、ニコライ堂で結婚式は執り行われました。幸子夫人はリトアニア領事館の前に集まるユダヤ人を見て、外務省からの失職覚悟でユダヤ人へのビザの発行を決めた杉原千畝の背中を押したと伝えられています。

戦後帰国した杉原は外務省から即刻退官となります。藤沢に居を構えた杉原は昭和35年に川上賢

易のモスクワ事務所長として定職を得るまでは職を転々としますが、この間ニコライ学院でロシア語の講師としても働いていました。その後鎌倉へ転居し、今は夫人と共に鎌倉の霊園で永遠の命を得ています。

戦後イスラエルやリトアニア等諸外国では杉原千畝の功績は高く評価されてきましたが、日本では長く無視され続けました。

一九八五年にフジテレビが「運命をかけた一枚のビザ・四五〇〇人（注）のユダヤ人を救った日本人」が放映されると一躍その偉業が国内に知られるようになりました。しかしながら日本政府による公式な名誉回復の表明は二〇〇〇年の10月10日、リトアニアとの国交回復の日に当時の外務大臣河野洋平が行った演説まで待つことになりました。

杉原千畝の洗礼名はパウロ、幸子夫人はマリヤです。千畝は遺言で正教徒としての葬儀で送られることを希望しましたが事情により神道で行われました。幸子夫人は千畝の遺志を想い、毎年ニコライ堂の司祭によるパニヒダを執り行ってきました。幸子夫人永眠後にはご遺族がその遺志を受け継いでおられます。

（注）正確な人数は判明していませんがビザ一枚で一家族有効であったので発給数よりはかなり多い人数であったとされる。フジテレビの放送では四五〇〇人とされていたが現在では六〇〇〇人であると言われている。

2023年5月11日鎌倉霊園にて



執事会だより

日時…2023年5月28日（日）

13:00-ニコライ会館

1 報告事項

①奉神礼等の実施状況及び今後の予定

- ・5月7日（日）フェオドシイ永島府主教永眠記憶日（聖体礼儀後聖堂にてリティヤ、谷中主教墓地にてパニヒダ）、月例パニヒダ、5月21日（日）婦人会総会、正副婦人会長選出（本誌ページに掲載）、5月24日（水）〜25日（木）升天祭聖体礼儀（※今後主日と重ならない十二大祭聖体礼儀及び亜使徒大主教聖ニコライ祭は9時開始となる。その他の祭日は従来通り8時開始。新年聖体礼儀は主日以外であっても10時開始。）
- ・6月3日（土）〜4日（日）聖神降臨祭（聖体礼儀に続いて主日晚課）、6月11日（日）月例パニヒダ（4日が聖神降臨祭の為、第二週となる）、6月13日（火）13時、大聖堂教会会計監査、